

岡野英之

Keywords : 発展途上国、フィールドワーク、東南アジア、アフリカ

◆研究概要等

地球規模課題(global issues)に直面したローカルな人々が、その問題に対処するためにどのような行動を取るのかを研究しています。

地球規模課題とは貧困、紛争、人権侵害、感染症の流行、環境問題など、一国のみの問題ではなく国際社会全体に関わる問題です。「地球規模」であっても、その課題に直面しているのは普通の人たちです。発展途上国を見ると、国際援助機関(国際機関、二国間援助機関、国際NGO)がその解決に向けて介入しています。その一方で現地の人々は問題に対処するために独自に対処してきました。そうした現地の人々の試みに関心があります。

今まで西アフリカ・シエラレオネの武力紛争(1991-2002年)やエボラ出血熱の流行(2013-2016年)、東南アジアのミャンマーにおける武力紛争(1948-現在)やタイ=ミャンマー国境の違法薬物問題について扱ってきました。アフリカや東南アジアで現地調査を実施し、現地の人々の視点からこうした問題を理解しようと試みています。

社会・マスメディア系専攻
講師

おかの ひでゆき

岡野 英之

okano.hideyuki@socio.kindai.ac.jp



<https://researchmap.jp/7000013308>

■研究テーマ等

1. シエラレオネ内戦(1991-2002)に関する研究

西アフリカの小国シエラレオネは1991年から2002年にかけて長期間の内戦を経験しています。本内戦はダイヤモンドを原資に戦われており、「血塗られたダイヤモンド」が起こした紛争としても有名です。本内戦の内戦の構図は複雑な様相を見せました。隣国リベリアの武装勢力がシエラレオネの武装勢力を支援したり、イギリスやナイジェリアといった他国がシエラレオネ政府軍を支援したりしました。内戦は単に一国内の問題というわけではなく、他国も巻き込む問題へと発展したわけです。私は内戦後の2008年から6年間シエラレオネへと通い、シエラレオネ政府の政府系勢力「市民防衛軍」(Civil Defense Force: CDF)について研究しました。CDFとは村の指導層によって各地で作られた自警団をシエラレオネ政府が組織化することで作られた勢力です。私はシエラレオネでCDFの戦闘員や司令官、CDFに関わった政治家などに聞き取り調査を実施し、どのようにCDFが作られたのか、そして、どのように解散したのかを明らかにしました。その成果は次のような成果になっています。

2. 西アフリカにおけるエボラ出血熱の流行に関する研究

西アフリカのシエラレオネ、および、それと国境を接するリベリア、ギニアは2013年から2016年にかけてエボラ出血熱の流行に巻き込まれています。エボラ出血熱とはウイルスを媒介とする感染症で、50-90%という高い致死率を持ちます。治療法は存在せず、治療といっても症状を和らげることしかできません。流行では約2万8000人が感染し、1万1000人が死亡しています。私がシエラレオネ内戦を研究している間に、本流行は発生し、現地で知り合いになった人々もその対策に巻き込まれていきました（幸い、エボラ出血熱で命を落とした人はいませんでした）。

上述の三国はいずれも最貧国といわれています。医療技術も十分に発達してらず、平時から医師の数が少なく、国際的な支援が入っています。これらの国で発生した感染爆発に対して、国際機関・先進国・国際NGOは支援を実施しました。また現地の政府もその拡大感染を封じ込めようと努力し、現地の人々も独自に対策を取っています。エボラ出血熱の感染流行中に現地で何が起こったのかを現地調査から明らかにしています。

3. ミャンマー内戦(1948-現在)と隣国タイとの関係

東南アジアのミャンマー（ビルマ）とタイにまたがって分布する少数民族シャン人は、ミャンマーでの武装闘争の他に、ミャンマーからタイへの違法薬物の流通、および、タイにおける少数民族問題とも関わっています。タイとミャンマーの間には経済格差があるため、ミャンマーからタイへは難民が流出するだけでなく、労働者としての経済移民も多くいます。「不法に越境した者が到着した先が建設現場なら不法労働者と呼ばれ、難民キャンプに到着すれば難民と呼ばれる」と説明する研究者もいます。彼らは国境を越えて行き来することで国家に囚われない越境的なネットワークを築き上げています。本研究では、ミャンマーの武装勢力、タイの違法薬物問題、そして、少数民族問題がいかに絡み合っているのかを明らかにしています。

●論文・作品・表彰・特許等

#インターネットで検索すれば、すぐ読める文献を載せました。その他の著書等はリサーチマップを参照してください。

- [1] 岡野英之「「若者」言説が作り上げた新興エリート—紛争後シエラレオネにおけるバイクタクシー業界団体の考察から—」『スワヒリ&アフリカ研究』29号、18-37頁、2018年。
- [2] 岡野英之「アフリカに見る内戦下岡野英之「エボラ出血熱——西アフリカ・シエラレオネの人々はいかに対応したのか」シノドス、2017年11月29日 <https://synodos.jp/international/20727>
- [3] [4] 岡野英之「アフリカに見る内戦下のセキュリティ・ガバナンス—シエラレオネにみる民主主義が担保する「協調行動」」『人文科学研究所紀要』(特集号:グローバル市民社会)109号、71-98頁、2016年。
- [4] 岡野英之「シエラレオネ紛争—その特徴と「若者」に対する再解釈—」『社会科学ジャーナル』(国際基督教大学)62号、33-58頁、2007年。

▲趣味等

国内外を問わず旅行に行くことが趣味です。通勤時間は欠かさず本を読んでいるのですが、本で得た情報に加えて、自分の目で見たり、自分の耳で聞いたり、味わったり、体験したりしたことはすべて世界を理解することにつながります。

◆ゼミの宣伝等

国際問題を扱っているゼミです。世界の問題を理解することを目標としています。私が学生に強調するのは本を読むことの大切さです。大学の授業の科目数は限られていますが、本は無限に入手することができます。本を読むことで社会や世界のことを知るといふ選択肢を身に着けて欲しいと思っています。